

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 落合 康浩

研究課題		地域資源を活用した地域政策の実態に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>今日、国内外の各地、とりわけ中央との格差が拡大する地方においては、地域資源の活用にもとづく地域振興のための施策が社会・経済を活性化するための切り札として期待されている。しかしながらかつての開発が推進した地域の改変によって存在意義が失われ、価値が減損した地域資源は多く、それらを活用しようとする今日的な地域振興の施策においても、正当に評価されないままに利用されている事例が少なからずある。そこで本研究は、地域資源の活用を謳って進められる地域振興策を取り上げ、その地域に存在する地域資源の意味と価値を評価しつつ、その活用実態について調査・分析し、地域資源の活用における課題について考察することを目的とした。</p>
	研究の結果	<p>発展途上国の地方の場合、経済的な発展を重視した開発を急ぐあまりに、地域資源の価値が正当に評価されず、それらを有効に活用することもないまま、開発が進められるケースが目立っている。たとえばパキスタン北部の山岳地帯の場合も、増加する観光客に対応して生業の軸を従来の農牧業から観光業にシフトする住民が増加している。そのため、観光資源としても活用可能な文化的地域資源の基盤となる農牧業の衰退傾向が顕著となっている。</p> <p>日本における地方都市の中には、市街地における歴史的・文化的な景観やそこに受け継がれてきた商業機能を活用することで都市中心部の再生を目指す取り組みが増加してきている。たとえば三重県伊賀市の場合、中心市街地に城郭の遺構や近世の町割りが残されており、それらを取り込んだ城下町風情のあるまちなみ景観を整備してきている。加えて文化的なイベントやアトラクションなどを街中で企画し実践することで、観光地としての魅力と住民が帰属意識を持てる空間としての性格を併せ持つまちづくりを目指している。</p>
	研究の考察・反省	<p>発展途上国の地方、あるいは日本の地方都市であっても、その発展・再生を目指す政策の中で今日重要な柱になっているのが、観光開発である。開発の施策の中で、来訪者が快適に過ごせる観光施設を整備することはむろん重要であるが、地域の持続性という意味においては、地域資源を地域の魅力づくりのために有効に活用することが大事である。パキスタン北部山岳地帯の場合は、伝統的に維持されてきた灌漑農地や放牧地などは植生に乏しい環境の中における緑地として、価値の高い景観構成要素であり、農牧業に立脚する行事や食文化なども維持し活用されるべきものであると考える。三重県伊賀市の場合、観光施設や城下町景観を整備することで観光地としての魅力を向上させる取り組みは進行しているが、そのまちなみをまちなか居住、あるいは地元の人々が集う空間として整備することには課題が残る。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	落合康浩 パキスタン北部ゴジャール地区における生業と生活の変容. 日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要, 58, 2023年2月8日, 日本大学文理学部自然科学研究所.	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		